



新編歌集



新類題發句集卷之部

四月

蝶夢編

卯月

卯月と卯月自の也也也也也也也

上法

故貝

更衣

更衣の事はあつたる月

太溪

京

春甫

縁のついでに縁のついでに

丹后

百池

隣りてまゝのついでに

丹后

鼎二

衣のついでに

信男

馬佛

振舞ひのついでに

信男

左丈

給

尾守も同し海客の跡を  
夏は夏乃中々おぼろ  
け能きもさかたか  
ゆき朝のまもり  
雁もくもく  
こ給せく娘の  
曾あぬ乳母  
馬もれ枝  
白雲か人の  
さすも

一竹  
方壺  
雪山  
驢道  
喃山  
李雨  
素柳  
梅珠  
長一

綿扱

青蓋

さすもり  
給  
まの  
順  
女の  
了  
給  
風  
ま

乙河  
煙月  
路  
塘里  
素心  
野  
鷺  
琴  
醉茶  
瓦二

慕祭

日乃... 喜一  
あまの... 野陽  
福... 魚潜  
人... 滄浪  
肩... 蝶碎  
菊... 吳南  
卯... 皇宗  
古... 極瑞

日吉祭

日吉祭... 皇宗

皇二

筑摩祭

瑞の... 皇宗  
古今... 馬駒  
下... 吾全  
つ... 蝶夢  
子... 騏道  
志... 一岸  
法... 唇凡  
清... 東江  
灌... 一勢  
清... 李山

千園子

灌佛會

灌佛會... 李山

佛生會

諸佛や坐して轉りて  
灌仏や姫子もまじり  
灌佛や侍りて  
丈六ありて  
梅極の二  
のまじりて  
おし  
法印  
又  
そ

之打

呂姓

布衣

呂姓

呂姓

素輪

後川

黃璞

麦光

古友

佛壽湯

衣吉堂

夏冬

竿躑躅

か  
し  
地  
世  
自  
一  
な  
夏  
花  
は

新島

平林

葦歌

吳琴

兼人

下谷

花園

魚池

俊次

不老

夏籠

夏花揚

夏書

夏書の巻一 梅のつぼみは  
夏書に記す所の梅のつぼみは  
すべからず梅の花は梅のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ

夏山 梅外 龍川 士川 桂門 雨橋 桐候 松濤 古巢 龍泉

夏四

矢數

新茶

古茶

風好茶

夏四珠粒のつぼみは  
通るつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ  
のつぼみは梅の花のつぼみ

貝朱 江重 紅野 葉乙 白干 一船 沂川 淳月 木越 夏宮

煮酒

海葦子  
短夜

又よのしほの白くは酒を煮る那  
風を煮る侍舟の所や風煮の  
ふのしほの目程も海を煮る  
こゝろもや夕乃月と短の月  
みよの夜や月と短の月  
短夜や月と短の月  
又よのしほの白くは酒を煮る那  
風を煮る侍舟の所や風煮の  
ふのしほの目程も海を煮る  
こゝろもや夕乃月と短の月  
みよの夜や月と短の月  
短夜や月と短の月

楚良  
不友  
之尺  
妻真  
如泉  
一貫  
梅也  
曾妹  
文里

五五

青嵐

短夜や清き月と短の月  
短夜や梅も短の月  
こゝろもや夕乃月と短の月  
みよの夜や月と短の月  
短夜や月と短の月  
短夜や月と短の月  
短夜や月と短の月  
短夜や月と短の月  
短夜や月と短の月  
短夜や月と短の月

之兮  
五柳  
菴室  
枝法  
豊人  
雄山  
斗吟  
碧々  
杏水  
梅珠

麥秋

まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき

志得  
如泊  
素兄  
平行  
色當  
梅東  
波臨  
晚翠  
枝舟

展六

麥刈

まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき  
まきあきかきあきまきあき

青出  
習之  
洞雨  
李山  
菊雅  
蘭戸  
軽舟  
風如  
馬備  
茶木



卯花

此花の初めは葉の末に白く  
卯の字を打ち書きの如く  
卯乃の如く白く白く  
く此花の如く白く白く  
之は花の如く白く白く  
下葉の中より花の如く  
卯の如く白く白く  
雪の如く白く白く  
卯の如く白く白く  
卯の如く白く白く

白  
孤  
杜  
桃  
古  
始  
三  
山  
童  
李

七

卯花

卯浪

牡丹

此花の初めは葉の末に白く  
卯の字を打ち書きの如く  
卯乃の如く白く白く  
く此花の如く白く白く  
之は花の如く白く白く  
下葉の中より花の如く  
卯の如く白く白く  
雪の如く白く白く  
卯の如く白く白く  
卯の如く白く白く

枝  
路  
洗  
涼  
充  
里  
雷  
如  
五  
湯

芍薬

深から十日ありの芍薬は  
一箱に唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から  
芍薬も唐土と書くは深から

深

古

佐

之

巨

漢

末

支

遠

吏

枝

李

比

南

夏八

燕子花

湯平  
け  
よ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

土佐 度雄

佐

山

香

信

江

龍

恭

紀

青

晴

珠

其

蜀葵

蜀葵の花は白くも赤くも  
ありて其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く

赤山

蒲尺

瓦全

子楯

文推

鳥奴

宣胡

雪貢

如雷

白浪

薔花

薔花の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く

夏九

茨花

茨花の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く  
白くも赤くも其の葉は如く

赤山

羽年元

加夜

龜選

知夕

杏序

出子

風送

末遊

東溟

筑峯

仙家

田植

美人草

山岩藤

胡蝶

鳶尾

忍冬花	すいじょう	梅	うめ	山羽	出羽
躑躅草	つむぎ	梅	うめ	民古	信后
茶梅	ちやばい	梅	うめ	文星	信后
玉卷草	たままき	梅	うめ	梅斜	京
蓮	れん	梅	うめ	沙同	
芭蕉	ばしやう	梅	うめ	木朶	信后
落	らく	梅	うめ	白常	

五十

蓼	れう	梅	うめ	臨花	陸奥
青刺	あおさし	梅	うめ	投雲	
草植	くさうち	梅	うめ	渡口	信后
青山椒	あやま	梅	うめ	梅五	
桂花	くわい	梅	うめ	南義	信后
枳殼	しき	梅	うめ	許國	
白丁	はくてい	梅	うめ	魚膳	信后
鷹爪	たう	梅	うめ	無徳	
		梅	うめ	阿雅	

梭榴花

繡球花

山梨

藜椿

桐花

餘花

Handwritten cursive text describing various plants and flowers, including mentions of '挑斗', '扇', '麻子', '師中', '西李', '起東', '柯杏', '孤舟', and '紅茗'.

挑斗

扇

麻子

師中

西李

起東

柯杏

孤舟

紅茗

夏十

夏木三

木下圖

Handwritten cursive text on the left page, likely describing the plants shown in the diagram below.

一

聽水

成美

里柱

深美

大空

青容

河上

吉亮

大島

嫩葉

梅橋のきよらりるに  
 古意のほろりるに  
 本もさるるに  
 梅乃大乳のりるに  
 花のりるに  
 梅のりるに  
 梅のりるに  
 梅のりるに  
 梅のりるに

五十一

吳地

赤尾

吳地

素涼

安房

直之

尾

梅森

幾童

菊二

蘭之

出射

嫩葉花

梅橋のきよらりるに  
 古意のほろりるに  
 本もさるるに  
 梅乃大乳のりるに  
 花のりるに  
 梅のりるに  
 梅のりるに  
 梅のりるに  
 梅のりるに

吳地

梅堂

信豆

月橋

吳地

窟丈

玉介

雖曼

其里

文里

如

玉圓

後

玉川

書

冬射

病葉

葉梅

梅葉 嫩楓 葉柳

葉柳也... 梅葉... 嫩楓...  
 葉柳也... 梅葉... 嫩楓...

葉柳 梅葉 嫩楓  
 東舟 祖明 宗瑞 央雨 千影

夏十卷

夏竹 草茂 夏野

夏竹... 草茂... 夏野...  
 夏竹... 草茂... 夏野...

夏竹 草茂 夏野  
 杜世 雀茶 栢翁 白轆 青李 届後 有以 輕舟 聖城

夏山

春の山を眺むるは  
夏山の青き山  
秋の山を眺むるは  
冬山の白き山  
春の山を眺むるは  
夏山の青き山  
秋の山を眺むるは  
冬山の白き山

尾山

雲馬

白雪

花縣

石橋

白干

紫文

梅東

漸々

勢々

夏山

夏川

夏川の水は清き  
秋川の水は濁き  
冬川の水は凍り  
春川の水は流る

業繁葉繁

本葉集

竹葉集

筍

風をよみて静かに  
山の井もあふれ  
水は清き水は濁き  
冬は凍り夏は流る  
春は流る秋は濁る  
冬は凍り夏は流る  
春は流る秋は濁る

丹后 無辞

京 此相

紀伊 志儀

土佐 致理

信濃 鳥牧

信濃 湯島

素柳

臨海

曉臺

孤海



篠子  
杜鰐

中  
た  
竹  
十  
元  
此  
自  
子  
郭  
中

山  
女  
後  
杉  
自  
山  
霜  
醫  
青  
山

五十五

中  
月  
入  
郭  
洞  
杜  
中  
郭  
六  
深

甲  
乙  
丙  
丁  
戊  
己  
庚  
辛  
壬  
癸  
子  
丑  
寅  
卯  
辰  
巳  
午  
未  
申  
酉  
戌  
亥

老翁

郭のりあてての園のす  
心林のりあてての園のす  
初よりあてての園のす  
竹のりあてての園のす  
本心林のりあてての園のす  
河のりあてての園のす  
杜のりあてての園のす  
百のりあてての園のす  
男のりあてての園のす  
老翁のりあてての園のす

山曉

蘇夢

春望

滄波

延長

古竹

得魚

以白

二條

花房

寫音

くくわい一あまのりあてての園のす  
黄のりあてての園のす  
寫のりあてての園のす  
くくわい一あまのりあてての園のす  
黄のりあてての園のす  
寫のりあてての園のす  
くくわい一あまのりあてての園のす  
黄のりあてての園のす  
寫のりあてての園のす  
くくわい一あまのりあてての園のす  
黄のりあてての園のす  
寫のりあてての園のす

古帆

階上

朝宇

筆袋

筆袋

筆袋

五牛

風起

重厚

山曉

布穀

昔一羽をてのりて  
石見 紀伊  
此綿 此綿  
同十世 同十世  
雀茶 雀茶  
石化 石化  
和重 和重  
妻鴉 妻鴉  
如偏 如偏  
李山 李山  
丈芝 丈芝

紀伊 石見  
此綿 此綿  
同十世 同十世  
雀茶 雀茶  
石化 石化  
和重 和重  
妻鴉 妻鴉  
如偏 如偏  
李山 李山  
丈芝 丈芝

行々子

かんとりてのりて  
此相 此相  
用信 用信  
志功 志功  
李後 李後  
尾依 尾依  
馬六 馬六  
上砂 上砂  
松雪 松雪  
とら とら  
琴枕 琴枕  
倉山 倉山  
四祖 四祖  
青橋 青橋

此相 此相  
用信 用信  
志功 志功  
李後 李後  
尾依 尾依  
馬六 馬六  
上砂 上砂  
松雪 松雪  
とら とら  
琴枕 琴枕  
倉山 倉山  
四祖 四祖  
青橋 青橋

おろしおろし

船船

葭切

おろしおろし

割草割草

方目鳥

鶴鶴

青鷺

青鷺青鷺

青鷺青鷺

鷹辨入

おろしおろし

鵜編

おろしおろし

鵜編鵜編

白子

茄壳

束心

若肉

娼婦

陶々

松涛

三考

折凡

依兮

かきおろしかきおろし

指月

指翼指翼

裏調

編蝠編蝠

戸城

おろしおろし

瓜涼

仙鳳仙鳳

松表

おろしおろし

中羽

居居

和竹

枝枝

素心

這目這目

雅憂

言言

待石

土鴨

蓋

蚯蚓出  
初蟬

燕子

蝇虎

飛蟻

子又

暮きつり 軒あめをよめる

まゆもくし けしき

まゆもくし けしき

初せきも 暮きつり

くまのこ けしき

蝶乃る けしき

阿のこ けしき

空ふらふ けしき

乙葉の隣 けしき

月さる けしき

東芽

三鼓

東也

早井

志清

洗面

曉谷

杉文

輝若

宗漢

蟻塚  
蚊

夜あけけしき

けしき

けしき

けしき

蚊のけしき

夕雨乃 けしき

あめ乃 けしき

文乃 けしき

雪乃 けしき

雪乃 けしき

蝶夢

如洋

香風

打鳥

就蘭

只一

路因

雨信

五有

杜仲

蚊柱

さしつかへなきしん風のあ  
らむもくも目のあつちりら  
びりさきそまふたのち  
きくけりあつちりら  
なるあつちりらの中  
もはつて種自れあつちり  
風のあつちりら海国  
冷あつちりらあつちりら  
夕空のあつちりらあつちり  
あつちりらあつちりら

信法 梧菴  
ま 杜栗  
行亮  
丁水  
岳如  
面橋  
雪秋  
唐凡  
子影  
蝶曼

藤井

蚊帳

さしつかへなきしん風のあ  
らむもくも目のあつちりら  
びりさきそまふたのち  
きくけりあつちりら  
なるあつちりらの中  
もはつて種自れあつちり  
風のあつちりら海国  
冷あつちりらあつちりら  
夕空のあつちりらあつちり  
あつちりらあつちりら

信法 梧菴  
ま 杜栗  
行亮  
丁水  
岳如  
面橋  
雪秋  
唐凡  
子影  
蝶曼

紙帳

さしつかへなきしん風のあ  
らむもくも目のあつちりら  
びりさきそまふたのち  
きくけりあつちりら  
なるあつちりらの中  
もはつて種自れあつちり  
風のあつちりら海国  
冷あつちりらあつちりら  
夕空のあつちりらあつちり  
あつちりらあつちりら

信法 梧菴  
ま 杜栗  
行亮  
丁水  
岳如  
面橋  
雪秋  
唐凡  
子影  
蝶曼

蚊遣火

さしつかへなきしん風のあ  
らむもくも目のあつちりら  
びりさきそまふたのち  
きくけりあつちりら  
なるあつちりらの中  
もはつて種自れあつちり  
風のあつちりら海国  
冷あつちりらあつちりら  
夕空のあつちりらあつちり  
あつちりらあつちりら

信法 梧菴  
ま 杜栗  
行亮  
丁水  
岳如  
面橋  
雪秋  
唐凡  
子影  
蝶曼

蠶金 蠶桑取  
 堅魚 似柳  
 一里路 香堯  
 不... 桂蘭  
 一里路 我白  
 一里路 土祿  
 一里路 幽管  
 一里路 發雨  
 一里路 里雪  
 一里路 其柳

夏廿一

鯉生節 田福  
 鮪 買山  
 鹿袋雨 葛毒  
 五月 出羽  
 泉月 六文二  
 完末

夏至

子也女也... 白兒

白兒

端午

... 素御

素御

葛蒲

... 雨橋

雨橋

葛蒲賣

... 古巢

古巢

葛蒲茸

... 官胤

官胤

夏廿一

蓬茸

... 素釣

素釣

葛蒲湯

... 烟翠

烟翠

葛蒲酒

... 求五

求五

求五



草埔夏

草埔方

藥玉

粽

懺

山崎より清く結ぶるあめ露  
帷子ふかしの草埔夏  
細くは結ぶるあめ露  
葉のまの草埔夏  
くまの草埔夏  
毎月の清く結ぶるあめ露  
くまの草埔夏  
くまの草埔夏  
くまの草埔夏  
くまの草埔夏

梅明  
万世  
陶々  
賈友  
夜打  
五鹿  
雪根  
傘打  
陰浪

草埔夏

飾境

印地打

加多響

藥日

人の影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏  
かまの影のまの草埔夏

周泉  
越水  
松露  
素琴  
極里  
吹笛  
白輪  
太溪  
柳也  
白兒

竹醉日

五月雨

長江東去浪下天  
竹影橫斜水清淺  
十丈黃龍潭水清  
春風吹綠柳絲柔  
雨後山色更蒼翠  
雲從足下生  
雨後山色更蒼翠  
雲從足下生  
雨後山色更蒼翠  
雲從足下生

蘇碎  
波臨  
素里  
五竹  
文塘  
五烟  
玉東  
梅人  
素十

蘇碎

長江東去浪下天  
竹影橫斜水清淺  
十丈黃龍潭水清  
春風吹綠柳絲柔  
雨後山色更蒼翠  
雲從足下生  
雨後山色更蒼翠  
雲從足下生  
雨後山色更蒼翠  
雲從足下生

蘇碎  
波臨  
素里  
五竹  
文塘  
五烟  
玉東  
梅人  
素十

梅雨

葉のたつたぬきぬき  
雨のたつたぬきぬき  
はるのたつたぬきぬき  
市の中はぬきぬき  
古のたつたぬきぬき  
ありのたつたぬきぬき  
たつたぬきぬき  
たつたぬきぬき

末 花裳  
梅子 石芽  
梅子 五合  
土佐 梅子  
土佐 梅子  
土佐 梅子  
土佐 梅子  
土佐 梅子

夏廿五

五月廿

五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿

五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿

梅雨晴

五月廿

五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿

五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿  
五月廿

虎雨

みづのしずかにあはれに  
橋をたたく水は白く  
恐る柳の影は白く  
倦く申さくも白く  
雨のしずかにあはれに  
隙のしずかにあはれに  
あはれにあはれに  
あはれにあはれに  
あはれにあはれに  
あはれにあはれに

白駒  
文曉  
古能  
牧牛  
翁子  
嵐字  
沂風  
綺石  
唱

夏月

青空の一人のまはる夏月  
橋をたたく水は白く  
恐る柳の影は白く  
倦く申さくも白く  
雨のしずかにあはれに  
隙のしずかにあはれに  
あはれにあはれに  
あはれにあはれに  
あはれにあはれに  
あはれにあはれに

回茶  
兼二  
加角  
倉庫  
秋水  
阿人  
素友  
當車  
一泉  
雲道

花鳥

石菖蒲

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

李多

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

鶴翅

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

蝶翅

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

此花

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

素兄

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

寄流

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

青橋

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

冬雪

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

苦白

萱草花

紅藍花

紅藍花

石菖蒲

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

李多

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

鶴翅

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

蝶翅

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

此花

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

素兄

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

寄流

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

青橋

石菖蒲の花は石の上を流るる水に似たり

生相

冬雪

石菖蒲の葉は石の上を流るる水に似たり

生相

苦白

夏廿

百合花

吹風節の百合花は花の心は

生相

卧竜

吹風節の百合花は花の心は

生相

玉莖

吹風節の百合花は花の心は

生相

柳枝

吹風節の百合花は花の心は

生相

素文

吹風節の百合花は花の心は

生相

葉下

吹風節の百合花は花の心は

生相

此流

吹風節の百合花は花の心は

生相

道肥

吹風節の百合花は花の心は

生相

幾葉

吹風節の百合花は花の心は

生相

傾傘

藻竹

吹風節の藻竹は花の心は

生相

傾傘

葎

葎の白くあつた花ももろ舟  
うらなうらなうらなうらなうらな  
うらなうらなうらなうらなうらな  
うらなうらなうらなうらなうらな  
うらなうらなうらなうらなうらな  
うらなうらなうらなうらなうらな  
うらなうらなうらなうらなうらな  
うらなうらなうらなうらなうらな

葎 葎我  
古 古道  
葎 葎友  
葎 秋水  
葎 二扇  
葎 桃路  
葎 坐来  
葎 樂枕  
葎 毛雨  
帆風

五廿八

美蔬

葎木

酸漿

杜鵑花

栗花

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

葎 猶祖  
葎 晋估  
葎 二白  
葎 色良  
葎 在翠  
葎 戲猿  
葎 順古  
葎 塙隠  
葎 杏院  
葎 蘇木

石榴花  
未央柳  
盧橘  
合歡心

南の山やまの山の中  
西の山やまの山の中  
嶺の山やまの山の中  
志の山やまの山の中  
望の山やまの山の中  
南の山やまの山の中  
北の山やまの山の中  
東の山やまの山の中  
西の山やまの山の中  
南の山やまの山の中  
北の山やまの山の中  
東の山やまの山の中  
西の山やまの山の中

於佳  
月湖  
重厚  
琥珀  
亞字  
杏庵  
柳芽  
翠江  
馬頭

夏九九

梨花  
棟花  
南玉公  
紫陽花

福の山やまの山の中  
山の山やまの山の中  
あやうやまの山の中  
雨の山やまの山の中  
雲の山やまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中  
あやうやまの山の中

大馬  
却水  
望雲  
巴文  
散庵  
由古  
椽仙  
白登  
里由  
湛一  
文噴







合筆行

わが世にまゝ旅の心もなほ  
和行の心もなほ旅の心もなほ  
まゝの世にまゝの世にまゝ  
あまの世にまゝの世にまゝ  
若年の世にまゝの世にまゝ  
ついでにまゝの世にまゝ  
和行の心もなほ旅の心もなほ  
わが世にまゝの世にまゝ  
まゝの世にまゝの世にまゝ  
旅の心もなほ和行の心もなほ

杜中  
玄交  
陶々  
如圖  
盤凡  
五来  
饒曼  
供青  
羽下  
支而

夏三二

行世流

早苗圃

るの心もなほ旅の心もなほ  
和行の心もなほ旅の心もなほ  
まゝの世にまゝの世にまゝ  
あまの世にまゝの世にまゝ  
若年の世にまゝの世にまゝ  
ついでにまゝの世にまゝ  
和行の心もなほ旅の心もなほ  
わが世にまゝの世にまゝ  
まゝの世にまゝの世にまゝ  
旅の心もなほ和行の心もなほ

下地 霞巡  
日向 杜若  
土佐 白鹿  
發音 玄白  
強河 須土  
一眠  
如洋  
大和 花溪

早苗

田植

はらきよきふゆはつちをこころ  
少くも秋をこころしりしり  
苗ももれぬのこころ指のまき  
柿ももれぬのこころはつち  
くももれぬのこころはつち  
あつちをこころしりしり  
植ももれぬのこころはつち  
くももれぬのこころはつち  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり

春山  
萍亭  
故栖  
折風  
襟醉  
呂教  
柴山  
指嶋  
慈曼  
東圃

長子巻

早乙女

くももれぬのこころはつち  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり  
あつちをこころしりしり

南龍  
北山  
木北  
鳥秋  
千友  
了明  
杜音  
竹波  
楚時  
青岑

青田

余の事はありて... 昔の事... 竹... 老... 折...

杜考 谷水 膳母 米姑 徳子 蘭戸 蝶夢 巴川 竹雨 普泥

田原

夏植

虫

菫... 今... 虫... 照... 柳... 田... 屋... 蟻... 馬...

車牧 东再 太布 鳳効 葉二 楚流 右次 彦雄 斗六

虫狩

虫籠

水に身をまかせしるる  
田の虫を阿なひて  
草の虫を捕らひて  
木の虫を採らひて  
土の虫を掘らひて  
空の虫を捕らひて  
山に身をまかせしるる

東鑑  
集古  
耳香  
得性  
元  
如法  
後居  
同業  
煎法  
三六

五三三

蝸牛

こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて  
こゝろをわらひて

古考  
十士  
支百  
梨青  
秋香  
陶々  
出羽  
宇相  
至峰  
江山  
紀行  
夏雨

蚰蜒

附羸は乃て相すくせしむ  
つのはねて何れおとけり均平  
角をそて路をすまひり結筋

用内 吏令  
古律

蛭

ちんちんしてるる大なる虫あり  
蛭よひる苗をじはるのまの事  
蛭屋を相とての虫あり

名程 希聖  
桃李

虱

まじりて人も一髪を舞くも  
虱母や同し事をもくひのそ  
久き虱の虱をわく本振可

後改 蟻  
蟻眠

蟪蛄生

かすまらやけれおとてをささる

江戸 菜湯  
夕口

夏三六

蛇脱衣

雨の日は蛇もは脱衣のそ  
草竹の葉もは蛇のそ  
蛇のまぬあつて蛇を冷す

書付 竹風  
干主

水雞

よひ人のあつて蛇を冷す  
水雞のあつて蛇を冷す  
水雞のあつて蛇を冷す

後後 雨山  
白老

鴉川

あつて蛇を冷す  
あつて蛇を冷す  
あつて蛇を冷す

紀后 笑漢  
木鶏  
蝶夢

水鳥菜

鶉菜

羽脱鳥

翡翠

Handwritten cursive text in vertical columns, likely representing a list of items or names.

五三子

格堂 如伯 陸奥 盤舟 出羽 鳥名 桃李 貝朱 淡波 玉雪 加賀 檉六 志江 舞國

唐子 築打

龜啼

Handwritten cursive text in vertical columns, likely representing a list of items or names.

位波 如毛 近江 扇律 女 款广 枝法 淡路 玉屑 秋野 近江 鶴兒 露候 加賀 梨玉 凌冬

照射	火串	小鯨	干鰓
凡十	菊隠	軒秋	葉素如
葉素如	小輪	園更	去野
去野	園更	去野	去野
去野	園更	去野	去野
去野	園更	去野	去野
去野	園更	去野	去野
去野	園更	去野	去野
去野	園更	去野	去野
去野	園更	去野	去野

長三人

曝布	夏衣	鷹羽織	帷子
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花
坐所	燦研	士厚	睡花

坐所 燦研 士厚 睡花 航翠 行月 魚恩 巴水 佛舟 尤來



花

喜多川の清流に花は咲き  
清き水に花は咲き

作 間山  
紀 糸吟

六月

水鏡

水鏡の合点の記に  
みよの書に人合記の

作 和泊  
安 古謙

氷室

氷室の梅の香に  
氷室の梅の香に  
行ふも都人もも守  
氷室の梅の香に

但 井西  
浪 西屋  
廻心

夏三九

氷賣

氷賣の行の記に  
あまの氷の記に

上 唱祖

氷餅

氷餅の記に  
氷餅の記に

杜喜

一夜酒

一夜酒の記に  
一夜酒の記に

用 篠袴  
長 枝風

嘉祥

嘉祥の記に  
嘉祥の記に

末 青夫  
万花

祇園會

祇園會の記に  
祇園會の記に

燕道

座内涼  
鞍馬切

青い花入のまゝもさるる哉  
傘洋也日と風通すもさるる  
かゝるるの障子もさるる  
さるるの障子もさるる  
さるるの障子もさるる  
さるるの障子もさるる  
さるるの障子もさるる  
さるるの障子もさるる

素外  
扇尺  
重厚  
貝朱  
紫雲  
山吹  
秋野  
故州  
夏平

御枝

夏越種

夏越種

河社

草輪

あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉  
あまのこゝろもさるる哉

杜静  
东吹  
成美  
浪雨  
旧園  
蚕山  
草白  
吾合  
菊し  
老鳥

形代

聖姫臨

半夜生

土用

土用丁

草の編み秋のしづかにうら  
かしのひびく後さぬりの皮  
形代のもくふるまはし行ぬる  
形代のゆは流るる水のるる  
涼きやまの氷よりくさるる  
涙流るる早もゆるやまゆ生  
叶のよもさけのよも中夜生  
すゝるち用りる秋の葉  
月ひくく金銀のち用りる舞  
袂裾とあるるも再や土用丁

東三

尾張

三河

陸前

尾張

陸前

夜打

雨聴

葉屋

白岩

夏四一

虫丁

さき申ふきものありのち用丁  
あはれもむしむしやち用丁  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし  
ち用丁やあはれもむしむし

浦夕

鳥曉

如泊

吳三

唄山

瓢之

箕町

材吾

安蘭

如毛

扇

しりしり音もたつぬもあふ  
むしりやせのあふ母とよとく  
出たりしりりり陣石鼓  
を拂へしりりりり結ひき  
ちりりや泥香すもちりり本  
ちりりや稚名年しりり本  
紋もろく産けりあふりりり  
稚もろくろりりりりりりり  
皆あふりりりりりりりりり  
るるるるるるるるるるるる

扇は  
丹徒  
赤良  
航要  
後改  
也柳  
後中  
效枝  
後中  
金生  
葉二  
黒沢

長四

扇

阿ふりりあふりりあふりり  
二ふりり打拿あふりりあふりり  
惟あふりり臨換りりりりりり  
かふりりあふりり扇の白ふりり  
銀あふりり源ふりりりりりり  
あふりり乃氣産りりりりりり  
あふりりあふりり路りりりりり  
るるるるるるるるるるるる  
りりりりりりりりりりりり  
極るるるるるるるるるるる

豊光  
魚潜  
翠室  
之は  
是龍  
狂序  
俊祐  
几童  
後改  
此川  
紀傳  
燕志  
阿風

行拭 掛香 日傘 筆

夕れぬもちかへんや 長白  
眼もよみしるも 女良  
あまのこも 二あま  
あまのこも 行ぬ  
あまのこも 出管  
あまのこも 一誓  
あまのこも 子晋  
あまのこも 一呼

張り 兼  
送人  
坐忘  
出管  
大和 茨裳  
後白 一誓  
辰不 子晋  
紀行 一呼

耳四巻

籠枕 抱籠 中婦人 暑

さへも月山はさうさ  
あまのこも 山崎や  
かたかた 子晋  
抱籠 一誓  
あまのこも 日金  
あまのこも 猪史  
あまのこも 只言  
あまのこも 左隆  
あまのこも 達而

行充  
李流  
東芽  
素兒  
日金  
折鳥  
猪史  
只言  
左隆  
達而

たきものけりてかゝるまゝに  
風かへつてふりさく異國なる花の  
風かへつて柳かへつて日かへつて  
花かへつてあはれなるまゝに  
夜はかへつて人の心かへつて  
暑はかへつてあはれなるまゝに  
日かへつてあはれなるまゝに  
傍かへつてあはれなるまゝに  
星はかへつてあはれなるまゝに  
河はかへつてあはれなるまゝに

妻四日

山彦  
志江  
山彦  
鎌方  
山彦  
佛舟  
山彦  
陰波  
山彦  
定雅  
山彦  
鶯口  
山彦  
浪家  
山彦  
青牛

雲峯

けりてあはれなるまゝに  
山彦  
梅珠  
山彦  
作雲  
山彦  
扇風  
山彦  
杏水  
山彦  
只有  
山彦  
二杏  
山彦  
千峯  
山彦  
巴川  
山彦  
蘭

山彦  
梅珠  
山彦  
作雲  
山彦  
扇風  
山彦  
杏水  
山彦  
只有  
山彦  
二杏  
山彦  
千峯  
山彦  
巴川  
山彦  
蘭

白雨

その白くはるかに降りし雨  
中より一筋の光を射す  
夕暮の空に霞を染めし  
白雲の影を落とす  
静寂の心は雨に洗はれ  
白雲の影を落とす  
静寂の心は雨に洗はれ

菅 後長  
重厚 白  
白麻 白  
徳山 後長  
成良 末  
梨陰 後長  
所鳳 末  
馬來 紀  
李夜 紀  
春南

夏四ノ五

雨乞

夕暮の空に霞を染めし  
白雲の影を落とす  
静寂の心は雨に洗はれ  
白雲の影を落とす  
静寂の心は雨に洗はれ

菅 後長  
東走 後長  
習之 後長  
極序 後長  
那弓 後長  
葛下 後長  
徳山 後長  
後川 後長  
臨華 後長  
崇徳 後長

涼

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

木下  
砂地  
杜由  
寸来  
馬歌  
馬吹  
松濤  
羽立  
曾川  
曾嶋

夏四六

薰風

納涼

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of approximately 12 vertical columns of characters.

何遠  
披雲  
東李  
幾架  
吳德  
雨人  
龜息  
迎月  
可卜  
雪下



四條納涼

つらき夏を癒すに  
涼しき水に身をまかせ  
川原の涼風を  
かきこみ  
心ゆくまで  
寝ころび  
涼を満喫す

純作 周瓜  
蝶夢  
可能  
素心  
羽白  
芋月  
定雅

夏四七

加茂納涼

清水

清らかな水に  
身をまかせ  
涼風を  
かきこみ  
心ゆくまで  
寝ころび  
涼を満喫す

純作 駒北  
朴二  
紫曉  
秋瓜  
李雨  
電文  
加茂 彦時  
石久 百重  
伊勢 一曲  
加茂 起上

打水

天宮のしほしほとくさくさ  
ささるるもあまも惜しむは  
踏みしきるあつたのり  
馬の耳止る元々向う  
情なやうの中へ年々  
ふんばり白粉はし  
るもあまも惜しむは  
ささるるもあまも惜しむは  
打水のしほしほとくさくさ

如月 鳳堂  
立竹  
安藝 亀兄  
其巖  
東鑑  
宗漢  
彩石  
一瓢

夏四ノ八

心太

隠きふあつた  
春のしほしほとくさくさ  
松のしほしほとくさくさ  
あつたのり  
ささるるもあまも惜しむは  
踏みしきるあつたのり  
馬の耳止る元々向う  
情なやうの中へ年々  
ふんばり白粉はし  
るもあまも惜しむは  
ささるるもあまも惜しむは  
打水のしほしほとくさくさ

腫美  
吳川  
猿交  
春如  
桂  
几華  
送立  
行亮  
錦水  
柳也

葛水

水賣

水飯 引飯 切麥 冷汁 煮冷 麻地酒 夏切茶 香葉散

水飯 引飯 切麥 冷汁 煮冷 麻地酒 夏切茶 香葉散

葉 得々 由木 冬香 東阿 孝安 醫海 為王 滄浪

夏四九

夏瘦 製痺 曝井 蓮

夏瘦 製痺 曝井 蓮

雪居 文波 几董 作雲 南瓜 倭泉 未龍 醫指 桂蘭 香葉

澤瀉  
河骨  
菱花  
蓴

花の葉や一物とてくさけり  
今をたれは花より葉の花  
葉の心は花より葉の心  
花より葉の心より葉の心  
花より葉の心より葉の心  
花より葉の心より葉の心  
花より葉の心より葉の心  
花より葉の心より葉の心

花骨  
蓴

李調

五来

其朝

志江

孤查

萍亭

二龍

仙心

苦爰

夏九十

海查

蘭灯

蒲穂  
鏡線心  
凌霄  
眼皮  
翠麥

海查もくさけり  
海查もくさけり  
海查もくさけり  
海查もくさけり  
海查もくさけり  
海查もくさけり  
海查もくさけり  
海查もくさけり

海查

南古

崑有

未風

猿序

津押

凡鳥

正意

徳心

枝条

渡

石竹花

七色花の如く花は赤く葉は青

七色花

約稿

花の如く葉は青く花は赤く

一徹

風蘭

花の如く葉は青く花は赤く

葉兒

玉簪

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

虎耳

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

鷺草

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

射干

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

青鬼燈

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

其五ノ一

青鬼燈

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

林檎

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

麻

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

夏草

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

綿花

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

紫菀

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

小菖蒲

花の如く葉は青く花は赤く

雀衣

南人 鼓勢 何月 卦十

胡麻  
生薬

地ろろ人の顔はあつと	はく
ふも葉も葉も白くも	お指
瓜むもあつと	口
冷くもあつと	桂舎
はくもあつと	幸陸
ありあつと	純壽
つくと	兼陸
あつと	桐亨
あつと	得々
あつと	塙雨

夏五二

夕顔

午の	鳥語
あつと	有魚
あつと	お指
あつと	鹿
あつと	寛少
あつと	桃五
あつと	巴明
あつと	雨橋
あつと	友字
あつと	歌石
あつと	菜珠

百日如

晴のひかりをまはるる白鳥

伊勢

素衣

霞のたもとにひかりて白鳥

鳴水

吹神のひかりをまはるる白鳥

北の

文類

晴のひかりをまはるる白鳥

東

一風

羽のひかりをまはるる白鳥

佳松

常羽遣習

雲雀雀

練雲雀

腐神化虫

蟬

あつたひかりをまはるる白鳥

上江

飛川

あつたひかりをまはるる白鳥

伊勢

芦結

あつたひかりをまはるる白鳥

坂名

楚舟

あつたひかりをまはるる白鳥

桃明

夏舟巻

あつたひかりをまはるる白鳥

実例

あつたひかりをまはるる白鳥

普成

あつたひかりをまはるる白鳥

後山

一著我

あつたひかりをまはるる白鳥

陸奥

柳炎

あつたひかりをまはるる白鳥

蝶巻

あつたひかりをまはるる白鳥

出羽

志信

あつたひかりをまはるる白鳥

如圖

あつたひかりをまはるる白鳥

陸奥

妻籠

あつたひかりをまはるる白鳥

道肥

あつたひかりをまはるる白鳥

始

空蟬

毛虫

毛虫モウチュウ 馬

毛虫モウチュウ 外六

毛虫モウチュウ 緑山

毛虫モウチュウ 鳥

毛虫モウチュウ 翠雲

毛虫モウチュウ 風

毛虫モウチュウ 如泊

毛虫モウチュウ 抵雨

毛虫モウチュウ 木朶

毛虫モウチュウ 几葦

蚤

夏五ノ日

繩 蚋

蚤シロ 馬  
蚤シロ 外六  
蚤シロ 緑山  
蚤シロ 鳥  
蚤シロ 翠雲  
蚤シロ 風  
蚤シロ 如泊  
蚤シロ 抵雨  
蚤シロ 木朶  
蚤シロ 几葦

燈蛾

燈蛾トウモリ 菊二

燈蛾トウモリ 有若

燈蛾トウモリ 白沙

燈蛾トウモリ 青標

燈蛾トウモリ 得性

燈蛾トウモリ 只言

燈蛾トウモリ 相友

燈蛾トウモリ 孤舟

燈蛾トウモリ 樓中

燈蛾トウモリ 東

夏虫

夏虫ナツムシ 只言

夏虫ナツムシ 相友

夏虫ナツムシ 孤舟

夏虫ナツムシ 樓中

夏虫ナツムシ 東

蜻蛉

蜻蛉テフドウ 樓中

蜻蛉テフドウ 東

海月取

海月取ウミツキ



仲繪

川狩

秋近

秋待

船のりもの新りの仲はるき  
 川もも隣のかき歌きん  
 川もも隣のかき歌きん  
 細もも入意ありあき  
 夕ももやあきあきあき  
 夕ももやあきあきあき  
 秋ももあきあきあき  
 秋ももあきあきあき  
 秋ももあきあきあき

後

女

寸に

風馬

上貞

五序

彌子

呂風

水序

夏中五終

